

令和5（2023）年度 全国学力・学習状況調査の結果について

深秋の候、保護者のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、4月18日（火）に実施された全国学力・学習状況調査の結果を基に、本校での分析内容を報告いたします。この調査結果は、学力や学習状況の一部であり、本校は調査標本数が少ないので、数名の回答で大きく変わる可能性があることに留意する必要があります。しかし、数字等から見えてくることを共有して傾向をつかむことによって、成果と課題を今後の教育活動にいかしていきたいと思っています。

なお、全国学力・学習状況調査の問題等については国立教育性格研究所のホームページで、本町全体の分析結果については町のホームページで公表されていますので、それぞれご覧ください。

1. 調査概要

○令和5年4月18日（火）に全国すべての学校を対象に一斉に実施された。

※4月18日に実施した中学校・生徒数は国・公・私立の合計9,702校・923,981人

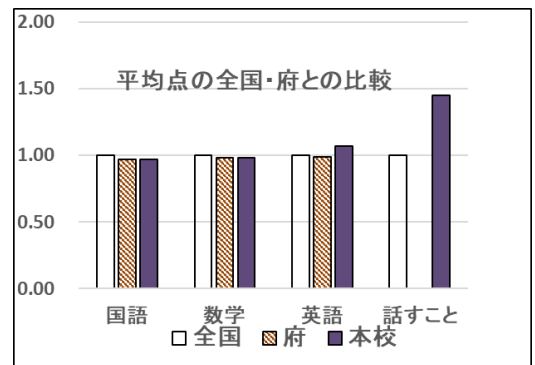
○中学3年生を対象に、教科に関する調査は、国語（15問）・数学（15問）・英語（17問）の3教科と1人1台端末を用いたオンライン方式により英語の「話すこと」（5問）の調査を実施。

○生徒質問紙は基本的な生活習慣、学習習慣など12項目80問あり、学校の指導方法や教育環境を問う学校質問紙は15項目89問あり、タブレット端末の使用状況やコロナ禍での学校行事の実施状況を問う質問があった。

2. 調査結果

【学力調査結果の概要】

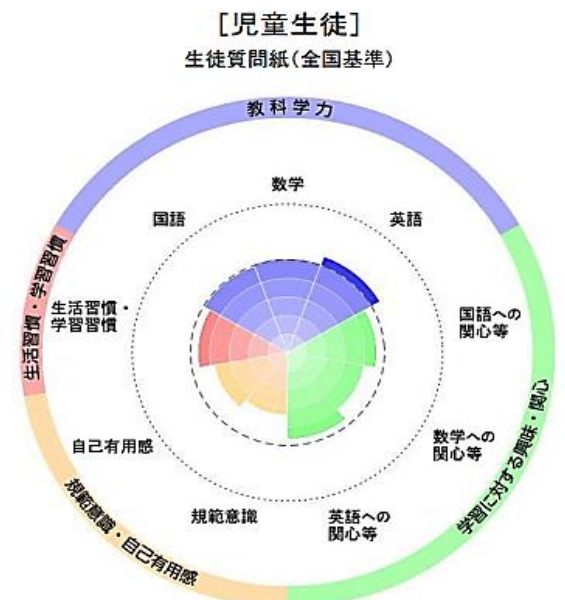
右のグラフは、調査教科の平均正答率を全国を1として大阪府と本校の割合を表したものである。国語と数学は、やや（-0.02～-0.03ポイント）全国より下回っているが、大阪府と同正答率であった。英語は全国、大阪府とも上回った（+1.07ポイント）。英語の「話すこと」調査は、国よりもはるかに（+1.45ポイント）上回った。（大阪府は公表せず）



右下のチャート図は、生徒質問紙の「教科学力」から時計回りに「学習に対する興味・関心」「規範意識・自己有用感」「生活習慣・学習習慣」について、中央の点線の円を全国基準として、本校の調査結果をチャートで表したものである。

各教科への興味・関心は、3教科のうち英語が一番高くなっているが、いずれも全国よりやや下回っている。

特に気になるのは、「規範意識・自己有用感」の項目が全国基準よりも非常に低いことである。「自分には良いところがあると思うか」の質問で「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的回答は72.7%（府77.7 国80.0）であるが、「当てはまる」と積極的に肯定している強肯定は21.2%（府36.1 国37.2）である。「将来の夢や目標をもっているか」の質問に対しても同様に強肯定は27.3%（府38.5 国39.4）と比較的低い。



【各教科の分析】

国語

漢字や語句の基本知識はあるが、表現の工夫や行書についての知識に課題が見られる

(1) 全体概要

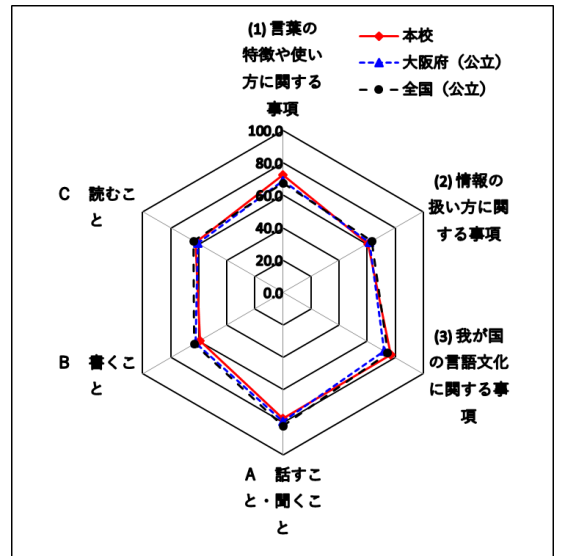
今年度は、全国平均正答率（69％）や大阪府の平均正答率（68％）とほとんど同じ状況（68％）である。

【知識及び技能】については、文脈に即して漢字を正しく書くことができていたが、「我が国の言語文化に関する事項」で行書について課題が見られた。

【思考力・判断力・表現力】については、国語の授業で、自分の考えを伝えるために聞き手の立場に立って効果的な工夫をしているかという質問に対して「当てはまる」と回答した生徒は、12.1％（府 20.6 国 19.3）と国や府よりも低く、「どちらかと言えば当てはまらない」と答えた生徒が 48.5％と府（27.6）や国（27.2）の結果と比べると大幅に芳しくない結果となっている。授業で実践していることへの意識が低いことが原因と思われるため、意識づけをしながら取り組んでいきたい。

【興味・関心】については、府と国とほぼ同等だったが、「嫌い」と回答した生徒は府（14.1）や国（12.2）と比べると本校は 9.1％とやや低かった。

学習指導要領の内容の平均正答率の状況



(2) 正答率による分析

①正答率が全国と比較して 約 10% 上回っている問題

- ・ 2 一事象や行為、心情を表す語句について理解しているかをみる
…正答率 100% (選択式問題 全国より +8.9%)

②正答率が全国と比較して約 10% 下回っている問題

- ・ 1 四 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる
…正答率 72.7% (記述式問題 全国 -9.8%)
- ・ 2 二 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる
…正答率 48.5% (選択式問題 全国 -14.5%)

数学

数式や関数については高い正答率だが、図形やデータの活用に課題が見られる

(1) 全体概要

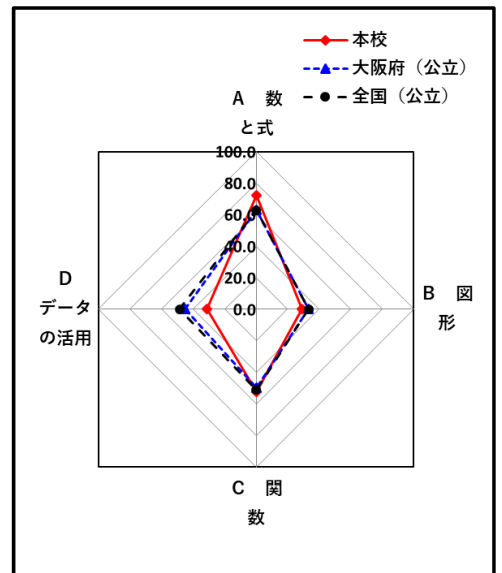
今年度は、全国平均正答率（51.0％）や大阪府の平均正答率（50％）と比較しても、大きく変わらない状況（50％）である。

領域別にみると、「数と式」「関数」の分野に関しては、全国・大阪府より正答率は高く、「図形」「データの活用」の分野に関しては、全国・大阪府より正答率は低い。特に、「データの活用」の分野は全国・大阪府の正答率と比較して、10%以上低くなった。

評価の観点別では、「知識・技能」については、全国・大阪府の正答率とほぼ変わらない。「思考・判断・表現」については、全国より正答率は少し低い結果となった。

また、生徒質問紙の「数学の授業の内容はよくわかりますか」の質問については、肯定的回答の割合は全国と比較しても高く、数学への理解度（知識の定着）に結びついていると分析できる。このことは、「知識・技能」の評価の観点が全国・大阪府の正答率とほぼ変わらないことから読み取れる。しかし、「数学の勉強は大切だと思いますか」や「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問については、肯定的回答の割合は全国と比

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



較して低い。数学の必要性を感じている生徒が少なく、実社会や実生活との関連についての理解に課題がみられる。身の回りの事象から設定した問題に取り組むことで、数学の有用性を実感するとともに、興味・関心を高めていく必要がある。

(2) 正答率による分析

①正答率が全国と比較して10%以上 上回っている問題

- ・1. 自然数の意味を理解しているかどうかをみる…正答率 75.0% (選択式問題 全国より+28.9%)
- ・2. 数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる
…正答率 90.6% (短答式問題 全国より+10.1%)

②正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題

- ・7(1). 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる
…正答率 31.3% (短答式問題 全国より-34.4%)
- ・7(2). 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる
…正答率 18.8% (記述式問題 全国より-14.8%)

英語

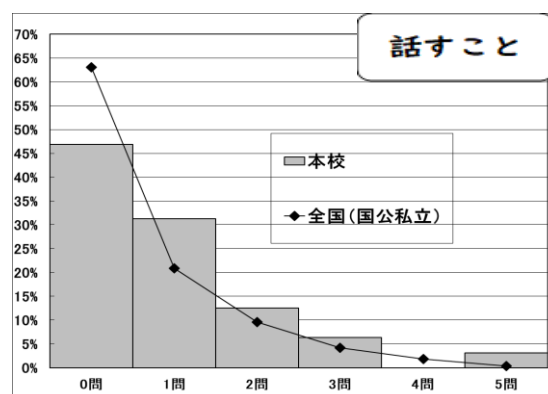
「聞く・話す」はできているが、「書く・読む」ことに苦手意識がある

(1) 全体概要

「聞くこと・書くこと・話すこと」は、全国と大阪府の平均正答率を上回る結果になった。特に「話すこと」については、右グラフでも分かるように半分以上の生徒が5問中1問は正答しており、全問正解の生徒もいる。「書くこと」については全国よりも少し上回ったが、無回答率も高くなっている。文章の読み取りについても課題が見られる。「書くこと」「読むこと」への苦手意識を取り除く授業づくりをしていく必要がある。

- 全体の正答率…49% (全国:45.6%) ↑3.4%
- ・聞くこと…60.4% (全国:58.4%) ↑2.0%
 - ・読むこと…51% (全国: 51.2%) ↓0.2%
 - ・書くこと…31.3% (全国: 23.4%) ↑7.9%
 - ・話すこと…18.0% (全国: 12.4%) ↑5.6%

正答数分布 (横軸: 正答数 縦軸: 割合)



(2) 正答率による分析

①正答率が全国と比較して約10%以上 上回っている問題

- ・1(3): 買い物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する
…正答率 59.4% (選択式問題 全国より+9.6%)
- ・7(1): 図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する
…正答率 75.0% (選択式問題 全国より+15.2%)
- ・7(2): 図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する
…正答率 50.0% (選択式問題 全国より+15.3%)
- ・9(1)①: 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる
…正答率 62.5% (短答式問題 全国より+22.5%)

②正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題

- ・5(1): ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する
…正答率 34.4% (選択式問題 全国より-21.6%)
- ・6: 友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する
…正答率 25.0% (選択式問題 全国より-10.9%)

【生徒質問紙の分析】

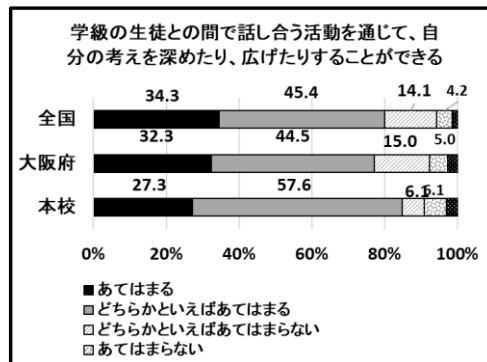
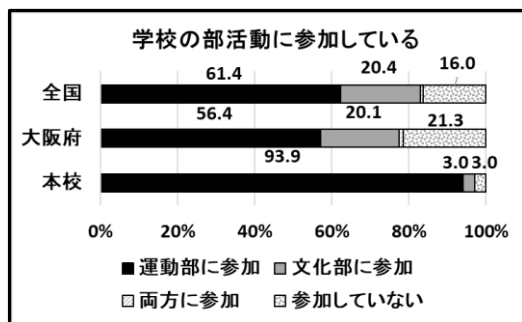
本校は調査母数が少ないので、パーセントやグラフで表すと調査対象生徒の年度によって、極端な結果となり、学校の傾向というより学年の傾向が出やすくなる。例えば、「人が困っているときは、進んで助けている」の質問において、「当てはまる＋どちらかといえば当てはまる」の肯定的回答では、昨年度は100%であったが、今年度は75.7%になっている。一方、「読書が好き」の肯定的回答では、昨年度は58.8%であったが、今年度は69.7%と高く、読書や図書館に親しんでいる生徒が多い傾向が見られる。今年度の学年の生徒質問紙の結果を受けて、府や国と比較して特徴的なものをあげる。

府や国より肯定的回答が高かった項目

部活動参加率は高く、読書好きの生徒が多い。話し合い活動で自分の意見が言える

中央公民館でのまなび舎の参加率も高く、部活動や図書館の活用なども積極的である。地理的な要因もあるのか、学校周辺を拠点としての活動を大いに活用している生徒が多い。また、話し合い活動でも物おじせず、自分の意見を出せる空気があるの

は、幼いころからお互いをよく知った関係性が基盤になっているからではないだろうか。

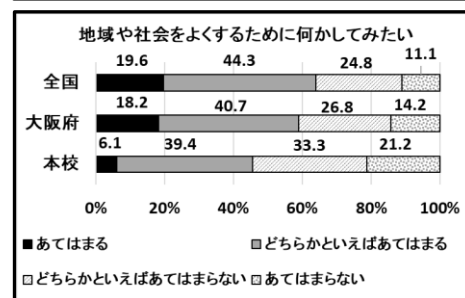
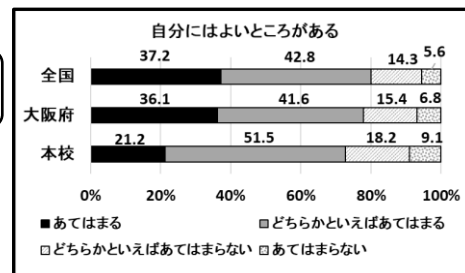


府や国より否定的回答が多く課題がみられる項目

自分自身の長所の自覚や自信が薄く、有用感を高く持てない

町全体の課題にもなっている「自分にはよいところがある」という質問については、強肯定（「あてはまる」）が、21.2%と、府（36.1）や全国（37.2）よりまだ低い。「人の役に立つ人間になりたいか」の肯定的回答（「当てはまる」＋「どちらかといえば当てはまる」）が54.5%（府 71.3 国 71.7）と、昨年度（82.4）より大きく下がった。また、地域や社会との関わりに関する項目の肯定的回答が「地域や社会をよくするために何かしたい」の質問では45.5%（府 58.9 国 63.9）、「日本や地域のことを、外国の人に知ってもらいたい」の質問では30.3%（府 60.4 国 63.2）と低い。

自分自身への自信を持つことに消極的であり、社会や地域とのかわりの中で、自己有用感をもちのが難しいようである。



3. 今後に向けて

本校の生徒たちは、良し悪しに関わらず、外からの刺激や影響を受けにくい生活状況である。落ち着いた日常生活の中で、のびのびと自分らしさを出せている一方、内心はこのままでよいのだろうかと不安に思っている生徒もいるのではないだろうか。上記の課題がある一方で、「友達関係に満足している」の質問の「当てはまる」という強肯定が比較的低い（本校 36.4 府 54.9 国 55.3）のは、現状に満足しているのではなく、新しい世界にも期待している表れと読み取りたい。現在、取り組んでいるSDGsの学習や地域でのキャリア学習などを通して、視野を広げ、社会の中で自分をどう生かしていくか考える態度を育てていきたい。小中一貫教育校の強みをいかして小学校と連携して、「とよの未来科」の中で前期学部では地域を知り（ローカル）、中期学部で世界に目を向け（グローバル）、そしてまとめ段階の後期学部では社会や地域で何ができるか見通しを持つ力（グローカル）をつけていきたい。